

令和 3年 5月 10 日

令和2年度 特別の教育課程の実施状況等について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立豊郷小学校（外 11校）	鹿嶋市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立豊郷小学校	http://www2.sopia.or.jp/toyosato/	http://www2.sopia.or.jp/toyosato/

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2020年には東京オリンピックサッカー競技の開催が予定されている。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

(3) 特例の適用開始日

2007年4月

2018年4月 変更

(4) 取組の期間

2030年4月まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

<特記事項>

(1) 第1学年児童による評価

- ① 外国語活動の時間は、楽しいですか。
楽しい 88.9% どちらかという楽しい 11.1%
- ② ALTと英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。
楽しい 77.8% どちらかという楽しい 22.2%
- ③ 英語を話せるようになりたいですか。
話せるようになりたい 88.9%
どちらかという話せるようになりたい 11.1%
- ④ 外国のことをもっと知りたいですか。
知りたい 77.8% どちらかという知りたい 22.2%

(2) 第2学年児童による評価

- ① 外国語活動の時間は、楽しいですか。
楽しい 80% どちらかという楽しい 20%
- ② ALTと英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。
楽しい 70% どちらかという楽しい 30%
- ③ 英語を話せるようになりたいですか。
話せるようになりたい 70%
どちらかという話せるようになりたい 30%
- ④ 外国のことをもっと知りたいですか。
知りたい 90% どちらかという知りたい 10%

(3) 教職員による評価

- ① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う 100%

- ② 第1学年からの外国語活動実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

思う 100%

- ③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化（生活、習慣、行事等）に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

思う 100%

④ 自由記述

- ・外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を向上させたい。
- ・他国の文化に早い段階から触れることで、外国に対して興味をもって欲しい。
- ・グローバルな考え方に触れて欲しい。

(4) 保護者による評価

- ① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う 50% どちらかというと思う 36.4%

どちらかというと思わない 13.6%

- ② 第1学年からの外国語活動実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

思う 68.2% どちらかというと思う 27.3%

どちらかというと思わない 4.5%

- ③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化（生活、習慣、行事等）に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

思う 50% どちらかというと思う 31.8%

どちらかというと思わない 18.2%

④ 自由記述

- ・英語＝勉強となってしまう前に早くから英語に親しむ事によって、少しでも苦手意識が減れば良いと思う。そして早いうちから英検など積極的に受けたりして欲しい。
- ・低学年から行うことで、外国語に対する苦手意識がなくなることを期待します。また、英語の母音や子音が聞き取れるような英語耳になって欲しいです。

4. 実施の効果及び課題

- (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

児童は、ゲームや歌を通して外国語に親しんでいる。知らない単語が出てきても、その単語の意味を推理し、答えている。外国語を怖がらず、慣れた環境であれば積極

的に発表することができる。今後は、単語だけではなく短い文にたくさん触れさせ、自分から表現できる児童を育成していきたい。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

授業の中では、学習した例文を使って積極的に発表することができる。しかし、その例文が必ずしも身に付いているとは限らず、次週の外国語の時間に同じ質問をされても答えられない場面も見られる。また、自分が話すことに夢中になってしまい、相手の反応を見ないまま自分の話を話すだけの児童も見られる。

5. 課題の改善のための取組の方向性

既習表現の定着が難しいことから、授業内で児童が実際に用いた例文や、日常会話の中で活用しやすい例文を英語ルームや教室内に多く掲示し、児童がいつでも確認できるようにしておく。

また、外国語の授業以外でも教員・児童が外国語を用いたやりとりを行うことで、「外国語を使う」ことに意識を向けさせたい。その際、外国語で会話をする際は常にリアクションをするということを意識させ、「相手意識」を実感させたい。